

医療

早期発見・早期治療のススメ

シリーズ 歯科治療最前線

治療の有効性実証で患者数は増加中

材質良化で治療短縮化も期待

インプラント治療とは…

【第30回】

現在、インプラント治療を受ける患者数は依然として増加しています。使用される材質も進化中で、ますます治療期間の短縮化から審美性の向上なども期待されます。そこで今月号ではインプラント治療はどう進化するかを特集しました。

患者数は依然として増加中

インプラント治療を受ける患者数は、ここ10年間を見ても毎年伸びてきています。この背景にはインプラント治療が社会的に認知度が高まり、歯の欠損治療として有効性が実証されたといえます。しかし、今年、愛知県で起こったインプラント治療の医療事故がテレビ、新聞などで大きく取り上げられたのは記憶に新しいことです。

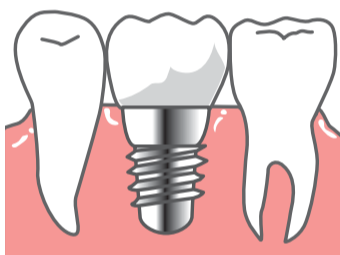
材質の違いを知ることが大事

インプラントの材質は年々進化を遂げています。日本ではインプラントの材質はチタンやチタン合金しか認められていません。インプラント体とその上にアバットメントといわれるものを被せ、そして歯冠を被せます。その3つを組み合わせますが、材質により価格が違うという

うことも治療を受ける際に、知っておくようにして欲しい。

治療の技術的な面においては徐々に進化しているものの、それを上回る勢いで材料面が進化してきています。例えばインプラント体が「コーティングされた」ハイドロキシアパタイトや「ジルコニア」と呼ばれる非金属で、白い材質のものも登場しています。「ジルコニア」は金属アレルギーがないのが大きな特長です。

また、アバットメントにジルコニアが使用されるケースだと、色が白いため審美性でも効果が上がっているといわれています。さらに、骨との結合時間を早めるためのインプラント体の開発が進められています。いずれも近いうちに日本でも使用が認められるのではと期待されています。



専門医からのアドバイス Q&A



熊本インプラントセンター
添島 義樹 副院長
日本口腔インプラント学会 認定医
厚生労働省指定 臨床研修指導医
中島学園非常勤講師

「インプラント治療その③」まとめ

Q 再生治療とどのような治療ですか？
A インプラント治療は骨と歯茎の状態がよくないとできません。そのため骨や歯茎の量が不足している患者さんに対しては上顎、下顎のどちらか骨や歯茎を少し移植し、再生する方法です。骨の場合は約4カ月ほどで、歯茎はもう少し早く再生できます。その後インプラント治療に入ります。当院でも行っていますが意外と多いですね。

Q 今後のインプラント治療の方向性は？
A 治療技術は大きくは進化しないと思いますが、使用される材質面が今までの材料以上にアレルギーが皆無のもの、審美性を考慮したもののや骨との結合がより早いものなどが出てきています。日本では未認可ですが、いずれは登場すると思います。社会的に見ると高齢化が進んで高齢者の方々のインプラント治療が増えると考えられます。

Q 骨や歯茎の再生療法も？
A 再生治療とどのような治療ですか？
A インプラント治療は骨と歯茎の状態がよくないとできません。そのため骨や歯茎の量が不足している患者さんに対しては上顎、下顎のどちらか骨や歯茎を少し移植し、再生する方法です。骨の場合は約4カ月ほどで、歯茎はもう少し早く再生できます。その後インプラント治療に入ります。当院でも行っていますが意外と多いですね。

Q 即時過重といわれる治療もあるそうですね？
A 一般的には治療のその日にインプラント体を埋入し、仮歯を入れる方法です。この治療は歯茎や骨の状態がすこぶる良好で、術者もベテランで経験豊富な医師でないとい失敗するケースが多々あります。症例を選ばないとインプラント体

Q 噛み合わせ不良だと難易度がアップしますよね。また、噛み合わせがよくない患者さんの治療は難しいです。

Q 難易度の高い具体的なインプラント治療を教えてください。

Q インプラント体を入れる部分の骨が少なすぎたり、顎の質がよくない場合、さらに、顎の関節に不調がある、口が大きく開かない患者さんの治療は難しいです。

Q インプラント治療は歯の欠損治療において、なくてはならない治療として普及してきています。そこで今回は難易度の高いインプラント治療や再生治療、今後の方向性などについて、添島歯科医院(熊本市桜町)の添島義樹副院長に、お話を伺いました。

Q 噛み合わせ不良だと難易度がアップしますよね。また、噛み合わせがよくない患者さんの治療は難しいです。

(社)日本口腔インプラント学会指定研修施設
熊本インプラントセンター
添島歯科医院
熊本市桜町1-28-205 桜町センタービル2階
0120-354-508
http://www.soejima-sika.com/

健康・医療・福祉・ニュース

KUMAMOTO

このコーナーは、新規開業や身近な医療・健康・福祉に関する情報を掲載します。

25億円かけ病院本館の増築に着手

福田病院
医療法人社団愛育会 福田病院(熊本市新町2丁目)はこのほど、病院本館の増築工事に着手した。2011年5月に新本館として診療を開始し、既存部分の一部改修を経て同7月に全工程が完了する。

周産期医療機能の強化のため増築するもの。同病院では今年1月、隣接地に新たな自走式駐車場を完成させており、旧駐車場跡地に本館を増築する。駐車場の新築を含めた総投資額は25億円程度。

増築部分は鉄骨造り1階建て、完成すれば延べ床面積は現在の10586㎡から16445㎡に広がる。これによりNICU(新生児集中治療室)とGCU(新生児保育治療室)の増設、MFIIC(U(母体胎児集中治療室)の新設を申請中だという。手術室や分娩室なども拡充。グレードアップさせる構想。増築に伴い、看護師を30人程度増員する。

福田副理事長は「地域周産期母子医療センターとして、受け入れられる体制や高度な治療を提供できる環境を整えることが使命だと考えています。今後は現在の地域周産期母子センターよりさらに高度な総合周産期母子医療センター」の認定を目指します」と話している。



病院本館の完成予想図

熊本市内初、320列CTを導入

済生会熊本病院
社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院(熊本市近見5丁目)はこのほど、熊本市内で初めて320列CTを導入した。

高画質の精密検査が可能となるほか、最大の特徴は、従来は10数秒の撮影時間を要していた心臓や脳全体をわずか0.35秒で撮影ができること。そのため、造影剤の使用量や放射線の被ばく量を従来ものより低減。撮影中の息止めや静止時間も短くなり、受診者の負担も軽減できるなどのメリットを持つ。

副島秀久院長は「県内では初の導入です。有用性も高く、医療環境の充実につながります」と話している。

また、4月から救急部と「総合診療部」を統合し、「救急総合診療センター」を設けた。独立したセンターとして運用し、専門医がチームを組んで患者を診るため、より迅速な対応が可能で、救急医療の充実につながる。

同病院の病床数は、400床、職員数は1442人。

月出4丁目の外来病棟を増築中

ニキハートイホスピタル
精神科、神経科の医療法人仁木会ニキハートイホスピタル(熊本市月出4丁目)は現在、外来病棟を増築している。6月に完成する予定。

受付から検査、診察、清算までの流れをスムーズ化するレイアウトに変更し、患者の待ち時間短縮につなげることが目的。既存の2階建て外来棟に隣接し、平屋建て、建築面積466㎡の建物を増築している。完成後は、2階建て既存病棟の全面改装に着手する。受付や検査室、診察室、カルテ室、処置室など外来の主な機能を増築部分に移管し、既存等はエントランスにする。全面改装は8月に完成する。

また、今回の工事と合わせ院内のIT化を進め、電子カルテや自動精算システムなどを導入、診療のスムーズ化を図る。

仁木啓介理事長は「新病棟の完成で内装も患者さまに安心感を与えるよう配慮し、アットホームな病院づくりに努めます」と話している。

同ホスピタルは現在地に仁木病院として開院、2007年に現病院名に変更した。診療科目は精神科、神経科、神経内科で病床数は200床、職員数は150人。



県内初導入の320列CT



院内にある診察室

なむらファミリークリニックなどを運営する医療法人社団澄心会(熊本市武蔵ヶ丘7丁目)はこのほど、同市上通町に美容皮膚科クリニックを開院した。

名称は「かよこクリニック」。場所は上通町アーケード沿いのソネットビル2階。床面積は152㎡。診療科目は美容皮膚科と皮膚科。医療器械を使用するレーザー治療や、化学成分で古い角質をはがして皮膚の再生を促すというケミ